AI Assurance, Inc.

AI ASSURANCE / INVESTOR PITCH

AI Assuranceを、守りのコストから「選ばれる競争力」へ。

AIや企業の判断を、根拠まで検証して
採用・実行・結果確認につなぐ数理基盤。

前木 秀光
株式会社AIアシュアランス ／ 広島AIアシュアランス協議会 発起人

広島AIプロセス パートナーズコミュニティ参画

EVALUATION OS / RESPONSIBILITY OS / ASSURANCE LAYER

会社概要 / 代表者

信頼で、AIの社会実装を加速する。

会社名	**株式会社AIアシュアランス**
設立	2026年2月10日
資本金	100万円
所在地	東京都新宿区北新宿4丁目4番4号
代表者	前木秀光（Hidemitsu Maeki）
URL	www.ai-assurance.co.jp

FOUNDER / 代表者略歴

前木 秀光

京都大学総合人間学部 国際文明学科卒業。
パソナグループ、マクロミルを経て2026年2月創業。
同年10月、株式会社AIアシュアランスへ商号変更。

POLICY / TECHNOLOGY

広島AIプロセス パートナーズコミュニティ参画

当社として参加。HAACの発起・技術協力も担い、
責任OS・形式検証・公開PoCの研究開発を推進。

Source: 会社概要・当社公表情報（広島AIプロセスへの参加掲載：2026.10.19）

Forbes JAPANも「次の巨大市場」と紹介。

AI Assuranceは、AI社会の成長を支える「信頼レイヤー」へ。

Forbes JAPAN

2026.04.24 公式記事

AIアシュアランス市場

2030 **2,760** 億ドル

2023年 16億ドル → 2030年 2,760億ドル

Juniper Venturesによる広義の市場予測

当社のTAM・売上予測ではありません。

AIアシュアランス TARGET

モデルが安全か、だけでは足りない。

会社として、そのAIや情報を
「採用・実行してよいか」を検証する。

次の争点：
判断・採用の Assurance

Source: Forbes JAPAN 2026.04.24 / Juniper Ventures 2024 market estimate

品質評価と接続し、採用・実行の保証へ。

当社は、業務ごとの条件・証拠・権限・実行結果を、一貫して再検証できることに重点を置く。

	Citadel AI 評価・審査・監視・リスク制御	AI Assurance 条件・証拠・実行結果を結び付ける
主対象	AIモデル・アプリと組織のAI利用	**業務ごとの採用・実行・後続利用**
主価値	品質・リスク評価、審査・承認、本番監視	**条件・権限・証拠・結果の対応を、 モデルと実装で検証**
アウトプット	Lens / Radar（AIファイアウォール）	**評価OS / 責任OS / 実行ゲート**
導入後の位置づけ	導入前評価から運用時のリスク制御	**業務の実行制御と事後の第三者検証**
関係性	近接・重複する機能を持つ	**補完的な接続を目指す**

当社の重点

1. 採用前検証から、実行後の結果確認まで設計
2. 数理的な証明と、再検証できる証拠を組み合わせる
3. 物流・自治体・サイバーへ共通の技術体系を展開

Source: Citadel AI Lens Governance / Radar、当社公開資料。公開情報に基づく重点比較。提携・機能不存在を示すものではありません。

AI Assuranceは「守り」ではない。
AI時代の“攻め”になる。

OUR THESIS：AIが推薦・採用・実行まで担うほど、AIO / GEOとAssuranceは不可分になる。

「信頼」はコストではなく、AI時代の流通条件になる。

共通の検証技術に、業務ごとの条件を組み合わせて展開する。

AIアシュアランス ASSURANCE LAYER

PR / 物流 / 公共 / サイバー

LICENSE + SDK / API + OEM

公開実証を、産業と公共へ広げている。

評価OSの公開を起点に、判断・実行・情報利用を検証する技術群へ。

評価OS 公開リリース / 2026.09.02

01 物流・企業間接続

サイバーアシュアランスPoC 2件

条件確認・実行制御・結果の再検証

02 自治体・公共

独立した3件のPoCと対応マッピング

AI回答の採用 / プライバシー / 派生情報の利用管理

03 国際展開の基盤

責任OSの中核技術群：PCT 7件

2026年10月公表。登録・権利取得とは区別。

Source: 評価OS・サイバーアシュアランス・PCT出願の各公表資料、自治体領域拡張の共同発表

理念と実態の整合性を、「一つの物差し」に委ねない。

提携パートナーを対象とした公開ケーススタディ

理念 / PROMISE

「テクノロジーで世界をもっと
やさしく、あたらしく」

↓ 観測可能な主張へ分解

ユーザー主導 / 継続改善 / 共創実行 など

公開行動・証拠と対応づける

例：ソース公開・内製化支援 / 更新・改善 / PoC・コード公開

EVALUATION OS

一つの採点法を選ばず、
結論を壊せる条件を探す。

解釈	重み	判定基準	=
4	5	3	60 評価世界

60 / 60 結論の反転なし

最悪条件値 70.0 ＞ 厳格基準 68.0

「この点数を信じてください」ではなく、
「公開した60条件では、結論が維持されました」。

Source: AIアシュアランス Evaluation OS public release / GitHub, Sep 2 2026

「その60通りや証拠自体を、都合よく選んだのでは？」

評価OSは、評価結果だけでなく「どこに人の判断が入ったか」まで検証対象にする。

01 BEFORE

調査・評価ルールを先に固定

結果を見てから物差しを変えない。

02 SEARCH

証拠の採否・反証を台帳に残す

見つかった不都合な候補を消さない。

03 UNIVERSE

許容評価世界を全体検査

有限なら全件、連続なら安全に包絡。

04 DECISION

1つでも割れればROBUSTにしない

多数決で都合のよい結論を選ばない。

DESIGN SCOPE

第0調査層：何を調べるか / 情報源 / 採否理由 / 未解決反証まで事前ルールで拘束し、調査が閉じなければ最終評価を禁止。

公開Pilotには人手の設計が残る。調査設計では、証拠の集め方・未解決事項も検証対象に含める。

Source: 評価OS公開Pilotと当社技術設計。公開実装で確認済みの範囲と設計上の射程は区別。

AIが解答を生む時代、「信じる」から「検証できる」へ。

生成能力の高さと、正しさを第三者が確かめられることは、別の価値。

OPENAI / 2026.09.08

Navier–Stokes

解決案と、Lean 4による形式証明を公開。

解法の生成：OpenAIの内部モデル

Lean形式化・検証に
GPT-6 Astraを活用

MATHEMATICS / 公開された実例

AIが生成した解答 → Lean 4の形式証明 → 第三者が機械検証

AIアシュアランス / 企業・産業への応用構想

企業の主張 AIの判断 → 証拠・条件 ＋ 証明 → 検証して採用・実行

検証可能な「証明書」を、AI時代に選ばれるための信用へ。

形式検証の対象は、明示した前提・命題の範囲。現実の証拠の真正性・意味対応は、別途検証する。

Source: OpenAI, Sep 8 2026 / openai/NavierStokesAndEuler / Lean Language Reference. Company application: our concept.

AIO / GEOの次へ。
企業発信を「AIが検証できる信用」にする。

PR TIMES型の情報流通に、Evaluation OS / Assuranceを重ねる事業構想。

AIO / GEO
見つかる・理解される

→

ASSURANCE
根拠を検証できる

→

ADOPTION
選ばれる・採用される

PRESS RELEASE + VERIFIABLE TRUST LAYER

主張	企業が何を約束しているか
証拠	実際に何を行ったか
評価条件	どの物差しを許容したか
反証・限界	何が未確認か
検証結果	結論は条件を変えても維持されるか

PRプラットフォーム
新しい有料付加価値

発信企業
検証可能な信用資産

「AIに引用される情報」から、「連携AIが根拠まで確認できる企業情報」へ。

Application concept. AIO reference: Platinum “AIO Retainer PR” / No deployment agreement with PR TIMES implied.

物流では、品質の判定を
実際の引き渡し条件につなぐ。

オンザリンクス共同PoCを起点に追加検証

温度・封印・管理移転・受領に加え、権限や実行直前の変更も確認する。

記録不足は保留。条件がそろえば進める。
再送時の重複実行を抑え、結果の不整合は隔離する。

実API：30件を検査 ｜ 別枠の模擬24件：不適合19件を遮断・適合5件を通過

Source: 共同PoC（2026.07）、カンファレンス追加検証（2026.10）、サイバーアシュアランス公開PoC（2026.11）。合成データによる検証。

企業間の接続も、「つながる」から「実行を確かめる」へ。

検証可能なフィジカルインターネット構想を、架空3社の接続・実行保証PoCで具体化。

COMPANY A

依頼する企業

条件・権限を付けて
引き渡しを要求

→

COMPANY B

元の接続先

処理結果・取消しを
証拠で確認

→

COMPANY C

切替先

取消し確定後に
新たな承認で実行

相手側の結果が不明なら、切替えを保留。

処理済みなら重ねない。取消し確定後だけ、新しい相手へ進む。

40 シナリオ

実プロセス間通信で検査

各社の目的・システムは維持。詳細データを一括共有せず、接続の根拠を確かめる。

Source: PI共同構想（2026.09.09）／サイバーアシュアランス公開PoC（2026.11.02）。架空3社・限定仕様。実企業接続・本番運用ではありません。

物流で培った検証を、自治体のAI利用へ。

クラウドシエンとの共同成果：自治体業務を想定した、独立した3件の技術PoC。

01 / ANSWER ADOPTION

AI回答の採用

その回答を採用してよいか

資料・自治体・版・金額・条件を照合。
必要な根拠がそろった原文だけを、
職員確認用の回答案として採用。

02 / PRIVACY

プライバシー

その情報を渡してよいか

氏名・詳細住所を渡さず文案を作成。
目的・権限・送信先・出力を検査し、
条件外の送信・採用を止める。

03 / LIFECYCLE

生成情報の利用管理

生成後も使い続けてよいか

要約などに元情報の目的・期限を承継。
後続利用、条件変更、コピーを含む
管理対象経路の利用終了を検証。

条件を満たさない利用を止め、条件がそろった利用を進める。

Source: 自治体領域拡張の共同発表。合成データ・限定仕様の技術実証。実自治体の本番導入・3件を統合したシステム実証ではありません。

「公開した」だけでなく、何を確かめたかを示す。

実API・模擬環境・形式証明の対象を区別し、結果と再検証手順を公開。

AI回答の採用

実際のOpenAI API生成回答

24 件を検査

採用11 / 保留3 / 不採用10

全文解析できた22件では、
定義した仕様との判定不一致なし。

**人工的な誤りを加えた110件も
すべて非採用。**

プライバシー

合成データ＋模擬送信先

46 固定ケース

送信・出力採用の判定が期待と一致

許可外の送信先、氏名の再混入、
送信結果不明などを検証。

**実住民情報の利用・外部AIへの
実送信は行っていない。**

派生情報の利用管理

API 1回の実生成文を対象

16 連続操作

条件承継から利用終了まで確認

用途別の許可・拒否、模擬承認、
管理下コピーの利用終了を検証。

**保存記録からAPI再接続なしで
判定・状態を再計算。**

Source: 自治体向け共同発表。回答採用は限定した日本語形式。解析不可2件は保留。利用終了は管理対象経路に限定し、媒体消去等は保証しません。

国際原則と実装を、証拠でつなぐ。

広島AIプロセス対応マッピングを、物流から自治体の3プロファイルへ拡張。

01
国際行動規範
何に対応するか

→

02
業務の条件
何を満たすべきか

→

03
検証の証拠
何で確かめたか

→

04
確認できる範囲
何が未確認か

LEAN 4
モデルの証明
定義・前提のもとで
判定モデルの性質を検査

PYTHON / TESTS
実装の試験
具体的な入力・操作に対する
挙動と記録を確認

MAPPINGS
対応と限界の明示
行動規範と証拠を結び、
過大な主張・不足を検査

業務条件は分けたまま、同じ枠組みで成果を蓄積し、HAAPの検討へ。

Source: 自治体領域拡張の共同発表／Hiroshima AI Process Assurance Mappings。公式認証・法令への全面適合・実運用の安全性を保証するものではありません。

数学的なコアを、
業界横断のライセンス事業へ。

企業・プラットフォーム提供者への技術提供を、導入費と継続利用料へつなぐ。

REVENUE MODEL

01 PoC / 導入
要件設計・有償実証

→

02 技術ライセンス
検証機能の導入・利用料

→

03 SDK / API
利用量・運用範囲に応じた課金

→

04 OEM
既存サービスへの組み込み

PUBLIC EVIDENCE

- 評価OS・物流PoC
- 自治体PoC 3件
- サイバーPoC 2件
- 中核技術群 PCT 7件

USE OF FUNDS

製品化	組み込み可能な共通検証基盤
事業開発	有償導入・パートナー経由の展開
知財	国内外の権利化・ライセンス整備

公開実証 → 有償導入 → 組み込み・継続利用。製品化・市場開拓・国際展開を加速する。

Revenue model: 事業化方針。PoC公開・国際出願は売上実績ではありません。AI保険・会計監査等への展開も検討。

技術を、政策・公共・産業の実装へ。

国際原則との接点、公共領域での連携、物流での共同実証を、社会実装へつなぐ。

01 / POLICY & ECOSYSTEM

AIアシュアランス / HAAC

広島AIプロセス
パートナーズコミュニティ参画

当社・HAACがそれぞれ参加

当社がHAACの発起・技術協力
国際原則を検証可能な業務条件へ

02 / PUBLIC SECTOR

PUBLIC / MUNICIPAL

クラウドシエン × 当社

自治体向け3件のPoCを公開

2026.09.18 の提携から具体化
回答採用・プライバシー・利用管理

自治体への接点・現場知見と
条件形式化・検証技術を接続

03 / INDUSTRY

LOGISTICS / INDUSTRY

オンザリンクス × 当社

共同PoC・PI構想を
産業の社会実装へ

物流の知見と検証技術を接続

2026.10.14 HIROSHIMA

製造業AI物流カンファレンス開催

現場への接点はパートナーと。共通の検証技術は当社が担う。

※ 当社・HAACのコミュニティ参加は、政府の技術認証・推奨を意味しません。HAACは民間・独立の協議会です。

広島での議論を、使える実践知に変えた。

製造業AI物流カンファレンス2026 in 広島｜2026年10月14日・広島国際会議場／オンライン

HELD / 2026

10.14

広島AIプロセスと産業の実装を議論

主催：オンザリンクス
企画協力：HAAC
技術協力：AIアシュアランス

政策 × 産業 × 検証技術

総務省・広島県・当社が登壇

クラウドシエンがモデレーター。品質・信頼と競争力を議論。

日英で公開した2つの成果資料

「広島AI物流 実践ガイド2026」

導入・運用の考え方、監査チェックシート、記録様式。

「AI HIROSHIMA Messages」— 11人の寄稿

Source: 主催者の開催報告（2026.10.29）・公式成果資料。登壇や寄稿は、参加組織による当社技術への承認・推奨を意味しません。

技術だけでなく、市場と共通ルールの形成へ。

白書・国際比較・日英発信を通じ、実装成果を国内外の議論につなぐ。

POLICY / INDUSTRY

広島AIプロセス 民間白書2026

AIアシュアランス・HAACの共同編著。
国際原則から、調達・契約・産業連携への
展開を提言。

日英公開

GLOBAL LANDSCAPE

世界の民間AIアシュアランス 動向レポート2026

公開一次資料に基づき、保証範囲・
実装段階・未確認事項を区別して比較。
共通試験12ケースの設計も提案。

世界24事例 / 8つの比較軸

海外向けリリースと日英資料を公開。日本発の検証技術を、世界で議論できる形へ。

Source: 当社刊行物公開案内・カンファレンス成果資料。民間の研究・提言。12ケースは試験設計で、実施済みの横断比較試験ではありません。

AIガバナンスを、
日本の産業競争力へ。

広島AIプロセスの社会実装から、日本発の共通ルールと技術の国際展開へ。

01

広島AIプロセス

国際的な原則

安全・安心で信頼できるAI

→

02

広島AIアシュアランス協議会

民間の実装

業界別の実証と検証可能な証拠

→

03

日本の産業競争力

攻めのガバナンス

検証可能な信用で国内外へ展開

広島で得た実装知を世界へ

→ **業務条件が違っても、根拠を確かめる共通の方法を育てる。**

HAAP / COMMON PROTOCOL

共通プロトコルの整備と国際標準化を目指す

AI Assuranceを、日本発の「選ばれる技術」にする。
製品化・有償導入・国際展開を、ご出資・事業連携で加速します。

Source: HAAC・HAAP、当社事業方針。HAAPは民間の共通プロトコル案であり、正式な国際標準・政府認証ではありません。

ご清聴
ありがとうございました。

物流・公共の実証から、業界を越える信頼基盤へ。
AIを仕事で使える条件を、日本から世界へ。

AIアシュアランス

前木 秀光
株式会社AIアシュアランス ／ 広島AIアシュアランス協議会 発起人